

文化財の防災計画に関する研究 (①必修05-15-5/5)

目 的

自然災害による文化財被害は甚大であり、復旧には多大な労力と時間を要する。我が国では自然災害の発生予測が難しいうえ、発生後すぐの救援はほぼ不可能である。そのため、「減災」の方向性を探ることが求められている。本研究課題では「地震・津波」を対象に下記の調査研究を進め、文化財の減災に必要な研究成果を提供する。

成 果

1. 宝積寺九重石塔（大山崎町）の修理にあわせた調査（調査日：2015（平成27）年4月21日、6月5日）
京都府指定有形文化財・宝積寺九重石塔は阪神淡路大震災の後塔の傾きが大きくなったことから、周辺の立入規制をかけて安全対策を行っていた。保存修復科学センターでは以前に三次元形状計測を実施していたが、今年度石塔が解体修理されることとなり、三次元形状計測データの拡充及び解体後の部材の調査を行うことができた。その結果、積み直しが複数回あったことや積み直し時に石材を当初と違う向きで設置していたことなど、傾きが生じた原因について明らかとなった。
2. 震災痕跡の保存状態に関する調査（実施日：2015（平成27）年12月16日、2016（平成28）年1月15日）
東日本大震災の震災遺構について議論されているいま、保存方法に関して将来問い合わせがある可能性があるため、既に指定を受けている震災遺構の保存に関する調査を開始した。2015（平成27）年12月は特別天然記念物根尾谷断層（本巢市）の断層崖トレンチ展示施設、2016（平成28）年1月は天然記念物野島断層（淡路市）の断層保存館において調査を行った。根尾谷断層の断層崖トレンチ展示施設では施設完成後水害で水没しており、その後の水害対策などについて多くの知見を得た。また、野島断層保存館では断層崖を覆屋内で保存しているが、外光が入る場所でも現在では植物の発生が見られないなど、保存管理の効果を確認した。
3. 平成26年度研究成果の公表
前年度実施した石灯笼実物大模型の振動台実験結果をまとめ、「石灯笼の地震対策に関する評価」として日韓共同研究報告書に掲載した。

論文

- ・森井順之、近藤希美、新津靖、御子柴正、花里利一「石灯笼の地震対策に関する評価」『日韓共同研究報告書2015』pp.59-70 東京文化財研究所／大韓民国国立文化財研究所 15.6

発表

- ・安井佑佳、森井順之、中川貴文、花里利一「仏像の耐震対策に関する研究 EDEMを用いた実物大実験の解析」2015年度日本建築学会大会学術講演会 東海大学 15.9.4

刊行物

- ・『日韓共同研究成果報告書 2011-2015年度』東京文化財研究所 16.3

研究組織

○朽津信明、森井順之、岡田健（以上、保存修復科学センター）



宝積寺九重石塔の解体作業